

主任コラム 5月号

主任 澤井 良子

入園・進級してから1カ月が経ちました。新しい友達や保育士と過ごす中で、子ども達も少しずつ自分を出せるようになってきました。

年長児は保育園の最高学年になったことで、小さい子が困っていたら声を掛けたり、身辺整理を手伝ったり、保育士のお手伝い（お当番）も積極的にしてくれています。お布団敷き、給食の机拭き、床拭き、配膳などたくさんありますが、床拭きなどで使う雑巾の絞り方などは、午後の年長児だけの時間を用いて保育士が丁寧に教えていました。また、月に1回、年長児はお御堂に行きお話を聞きます。目的としては、「話を静かに聞くこと」「集中力をつけること」、「物語を聞く（朗読）こと」で、想像力を膨らまし、話を聞くという事の大切さを身に付けていって欲しいという思いもあります。初めてのお御堂でのお話は「蜘蛛の糸」だったのですが、最後まで集中して聞いていた子は、「糸が切れないように一人ずつ登ったらいいやん」と感想を言い、こんなに難しい話を絵を見ずに、園長先生のお話だけで物語を理解・想像して考えることができたなあ…と感じる反面、集中力も途切れ姿勢を保てない子も多かったようにも感じました。

年長児だけに限らず『話を聞く』という力が身につけば【読解力】【表現力】【共感力・人間関係力】も育ちます。特に【共感力・人間関係力】は、人間関係を円滑にするために欠かせず、共感力を発揮するには、まずは相手の言葉に耳を傾ける努力をしなければなりません。話を聞く習慣をつけることで、徐々に相手の気持ちが理解できるようになります。そして、相手が話をしている時には、途中で口を挟んだり、飽きて他の事をし始めたり、無視したりせずに、しっかりと耳を傾けることで我慢強さも身に付きます。その為には、「話を聞くことのおもしろさ」を子ども達が感じられるような工夫を大人がしていく必要があると感じています。



また、給食の場面では、年長児のお手伝いの中でデザートの果物の数を一人ひとりに丁寧に聞く姿を見かけ、微笑ましく思いました。給食でのセミバイキングでは「好き嫌いをなくす」、「完食する」という事よりも、相手に自分の思い（ここでは食べられる量）を伝えるという事を一番大事にしています。年長児の問いかけに指で量を伝える子もいれば、口で伝える子もいます。量は「いっぱい」「ふつう」「少なく」です。各クラスに量の目安は写真を貼って表示してありますが、2歳児はこの間の研修で「初めから量を聞くのではなく、普通の量から減らす事で少ないということ、増やすことでいっぱい伝えていく」とありました。これはご家庭でも実践できるのかなと思います。年長児のお手伝いは慣れてきたら、小さい子のクラスへもお手伝いにいけたらと思います。日々の保育を振り返りながら、個々の発達にあった保育を私たち自身も学びを深めながら、保育の実践につなげていきたいと思ひます。

